

国分寺市施行 60 周年記念 歴史講演会 *事前申込制 無料



「古代の交通ルール～古代の人は道のどちら側を歩いたのか?～」
現在の交通制度の成り立ちを皮切りに、時代を遡りながら、古代の交通ルールを考える講演です。

【日時】12月8日(日)午後2時から4時(開場 1時30分)

【講師】近江俊秀氏(文化庁 主任文化財調査官)

【場所】いずみホール・Aホール(国分寺市泉町3-36-12)

【定員】250名

【申込】右LoGoフォームから(こちら→)

【受付】〆切は、12月2日(月)まで

定員になり次第〆切らせていただきます。

【問合せ】国分寺市教育委員会ふるさと文化財課

電話 042-300-0073(月～金・午前9時～午後5時)



第37回多摩郷土誌フェア

*入場無料



多摩地域の郷土・歴史・文化財・自然に関する様々な図書を展示販売します。

【日時】令和7年

1月18日(土)午前10時から午後5時

1月19日(日)午前10時から午後3時

【会場】立川市柴崎学習館(今年度は会場を変更)

JR立川駅南口より徒歩9分。または、多摩モノレール立川南駅より徒歩8分。※公共交通機関をご利用ください。

【主催】東京都市社会教育課長会文化財部会

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



■交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車/徒歩約20分 JR西国分寺駅下車/徒歩約15分

【バス】国分寺駅下車

○「国分寺駅西」より国分寺市地域バス『ぶんバス』

万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分

○「国分寺駅南口」より「京王バス」

系統番号「寺83」・「寺85」乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

西国分寺駅下車

○「西国分寺駅東」より国分寺市地域バス『ぶんバス』

万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分

または、日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

国指定史跡武蔵国分寺跡保存整備事業のお知らせ

一南門地区西範囲を9月より開放一

令和5年度の整備工事で、伽藍地区画溝の遺構表示、推定修理院の解説板設置[写真1]、四阿や腰掛[写真2]を整備しました。



写真1

区画溝(南西から)



写真2

四阿(北東から)

来館者数

2009年10月18日～2024年9月末日

来館者数累計 多くの来館者ありがとうございました

195,207名

【4月～9月の学校見学】

	学校	人数
小学生	3	242
高校生	2	7
大学生	3	42

【来館校】市立二小(6年生)、市立六小(6年生)、東京電機大学中学校・高等学校、武蔵野美術大学、東京経済大学、淑徳大学

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

※新型コロナウイルス感染症対策のため、引き続き手指の消毒にご協力ください。マスクの着用は利用者個人の判断としています。

■開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始(12月29日から1月3日まで)

※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)

一般……………100円(年間パスポート1,000円)

中学生以下……無料

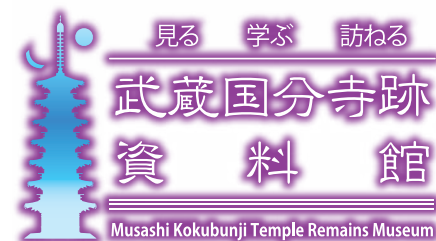
〔入園料の減免規則があります〕

(1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕

(2) 身体障害者等及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕

(3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕

※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



ホームページ
二次元バーコード

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行

見る / 学ぶ / 訪ねる /

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
【電話】042-323-4103 【FAX】042-300-0091
【E-mail】museum@city.kokubunji.tokyo.jp
【HPアドレス】http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2024.11
第55号



Temporary Exhibition



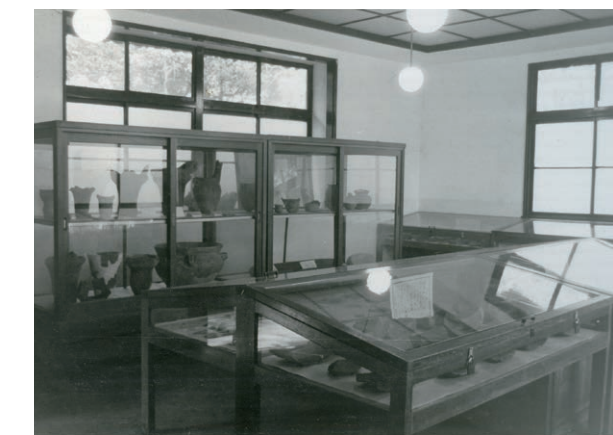
武蔵国分寺跡資料館 令和6年度秋季企画展



武蔵国分寺跡資料館が引き継いだ「国分寺市文化財保存館」の収蔵資料のうち常設で展示していない資料を公開しています。

国分寺市文化財保存館(以下保存館)は、戦後まもなく町立の博物館として現国分寺の境内に開館し、史跡地を訪れる人々に親しまれてきました。保存館の収蔵品は、文化財保護法が制定される以前に、現国分寺の先代住職星野亮勝氏らの調査により収集されたものや寄贈品で、国分寺市域の歴史を知るうえで大変貴重なものです。昭和39年に一括して市の重要有形文化財に指定されました。

本展示では、15年ぶりに公開される資料とともに保存館とゆかりのある人物を紹介します。



文化財保存館 館内(昭和33年頃)



国分寺周辺から出土した縄文時代の遺物/甲野資料(くにたち郷土文化館提供)

上写真は、保存館で展示されていた資料です。このうち、石棒、石皿、すり石などを公開しています。国指定重要文化財である土器6点は、東京国立博物館に展示されています。

文化財保存館の歴史を振り返る 15年目の蔵出し展

■開館時間 午前9時～午後5時

(入館は午後4時45分まで)

■期 間 令和6年10月18日(金)～12月8日(日)

■会 場 武蔵国分寺跡資料館 講座室

■入 館 料 「おたかの道湧水園」への入園料が必要

■休 館 日 月曜日(祝・振替休日の場合は直後の平日)

◆展示内容◆

1章 縄文時代の出土品

2章 武蔵国分寺跡に関連する出土品

3章 文化財保存館とゆかりのある著名人

星野亮勝・甲野 勇・岡本太郎ほか

4章 収蔵品紹介

秋季企画展関連記事 一文化財保存館開館の時代背景一

文化財保存館の設立前後の刊行物から、開館に関わった人々の思いをご紹介します。現国分寺発行の冊子には、保存館の紹介文に「この館の設立目的が、戦後間もなくの青少年に正しい日本の姿を知ってもらおう、そのためには、まず郷土の歴史からということを中心としているからである」と記されています。(1)

星野亮勝氏は『武蔵野』に「古瓦発見の動機」として、「負戦の年故郷に帰った時第一に目に映ったのは老杉の木立も小暗い境内に無数に掘られた防空壕と附近一面に散乱する古瓦とであった。(中略) 寺が従来から所蔵の瓦は個人の研究家のそれに批し誠に貧弱であることに気付いた私は、出来得限りの努力を払って古瓦を收拾し、研究家に資料を提供し国分寺研究の一助とすべく決意をしたのである。」と記しています。(2)

また、星野亮勝氏とともに武蔵国分寺の発掘調査に携わった考古学者の甲野勇氏は、『あんとろぼす』に「古代史と博物館」として、「敗戦の結果、われらは従来教へられた古代史を失ふこととなった。(中略) この混乱期にのぞんで、正しき古代史を編成し小国民たちに心のよりべを与えることは、われらに付与された大なる使命である。科学

的な古代史はまづ考古学的事実に立脚しなければならない。」と記しています。(3) 甲野氏は、生涯を通して精力的に国内各地の発掘調査を行い、多くの博物館設立にも尽力しました。(4・5)

保存館の開館の時代は、歴史を科学的に解明し、後世の人々へ伝えるという意欲にあふれていた時代であったと考えられます。

- (1) 星野亮勝『武蔵国分寺』1967年
- (2) 武蔵野文化協会『武蔵野』第31巻2号 1949年
- (3) 山岡書店『あんとろぼす』1946年
- (4) くにたち郷土文化館 企画展『甲野勇の軌跡』1998年



武蔵国分寺跡にて(右から3人目が甲野氏) / 甲野資料(くにたち郷土文化館提供)



して、昆虫の持つ色のひみつに迫りました。アゲハ蝶の羽化や、ノコギリクワガタの飛立つ瞬間、といった浜野栄次氏撮影の写真パネルも展示し、同氏の昆虫を

見守る温かい目線を感じることができたと思います。

同時に、夏休み子どもたちに向けて、カブトムシ・クワガタムシの生態展示、参加型展示「おたかの道湧水園 生物発見MAP」や、アブラゼミの羽化を捉えた連続写真を展示しました。また、長屋門では子ども向けイベント「昆虫缶バッジ作成」を開催しました。

来館者アンケートからも、昆虫をはじめトカゲやシジユウカラ、池のカワムツやネコまで、多種多様な生き物で賑わっているおたかの道湧水園の自然を再発見していただけたようです。

旧庁舎の思い出 一市役所(戸倉1-6-1)の屋内一

夏季企画展の写真展『国分寺市誕生その日、その時』アンケートのリクエストにお応えし、当時の市役所内に設置された各コーナーの未公開写真を市報写真データベースから厳選し、ご紹介します。昭和38年(1963)3月に竣工した町役場は、翌年の昭和39年(1964)11月の市制施行で「国分寺市役所」となりました。現在、建物は残っていませんが、建坪800㎡、地上3階・地下1階からなる旧庁舎の1階には、住民課や住民相談室、住民ホール、2階にその他各課、応接室、3階に議場や会議室、地階には職員食堂がありました。



1階住民ホール 昭和38年(1963)



庁舎出入口と噴水池 昭和40年(1965)
コイ、フナ、金魚などがいた噴水池は子どもの落水事故多発などのため、昭和43年に埋立てられて花壇となりました。



市役所内地下食堂 昭和40年(1965)
面積約147.6㎡、48人分のテーブルを用意、そば、和定食、カレーライス、その他タバコなども販売していました。



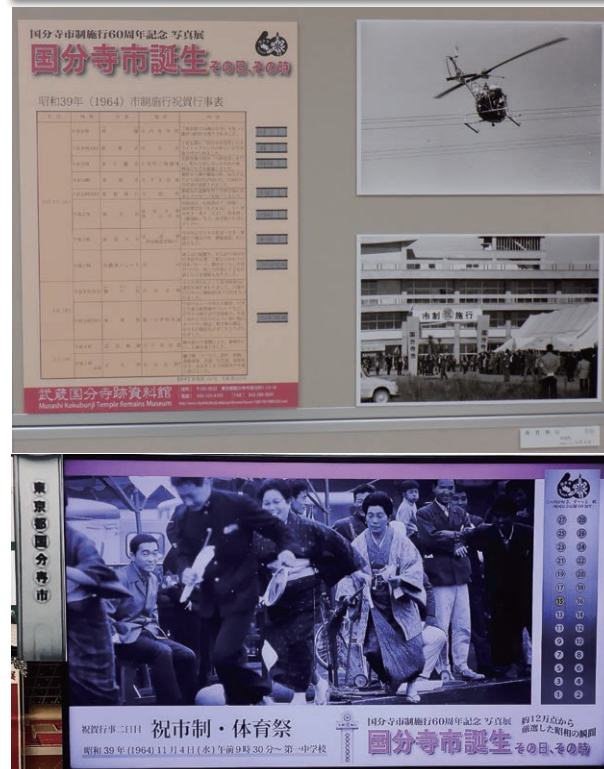
1階住民課窓口 昭和41年(1966)



1階庁舎案内 昭和41年(1966)

※ 国分寺市役所は、令和7年(2025)1月6日(月)から新庁舎(泉町2-2-18)で業務を開始します。

令和6年度夏季企画展 開催報告



東京で14番目の市が誕生した昭和39年(1964)11月3日、国分寺市内で三日間にわたり12もの祝賀イベントが催されました。当時の市民の表情を活写した28枚の写真パネルとデジタルスライド56枚の計84枚の写真で構

成する、「市制施行60周年記念写真展『国分寺市誕生その日、その時』」を7月23日から9月16日まで開催しました。これらの写真の9割は今回初めて公開されたものです。「祝賀飛行」で、お祝いのメッセージを投下



するヘリコプターと空を見上げる祝賀会場の人々、「演芸会」の歌手登壇と夢中で聴き入る観客、「武道大会」での国際色豊かな参加者による空手の「構え」から「突き」の瞬間、といった、空間や時間で対比した組写真で展示しました。デジタルスライドでは「体育祭」や「自動車パレード」のそれぞれの情景を時系列に並べて、昭和の時間の流れをリアルに感じさせる、市民の喜びが伝わってくるような写真を厳選しました。

同時開催の「浜野栄次昆虫コレクション〜虫の色のひみつ〜」では、平成4年(1992)に寄贈された昆虫コレクションの中から、今でも鮮やかに輝いて見えるタマムシやコガネムシ、モルフォチョウやシジミチョウ等を中心とした標本16箱を展示し「構造色」をキーワードと